

企画展

大「細工」展

—小さなものたちの大きなつばやき—

会 期：10月18日(水)～11月24日(日)
休 館 日：毎週土曜日(ただし11月3日と24日は原館)
観覧時間：午前9時30分～午後5時

日本人は〈もの〉を作ることに非常な情熱と畏敬の念を抱いてきました。未知の〈もの〉を見たときの旺盛な好奇心、見よう見まねで同等のものを作ってしまう適応能力の高さ、限られた材料を活かし切る様々な工夫、出来上がった〈もの〉の高い完成度、そして趣向や仕立てを好む遊びの精神。

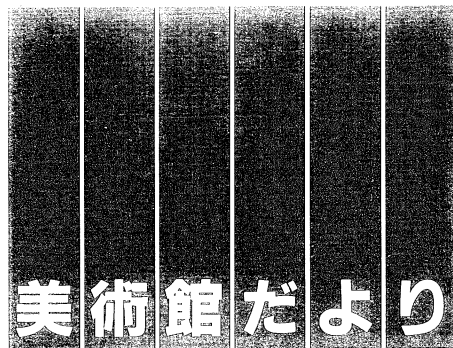
こうした、〈もの〉をつくるときに現れる日本人の特徴は、あらゆる分野で見出すことができます。

このような特徴を表している言葉として「細工」があります。

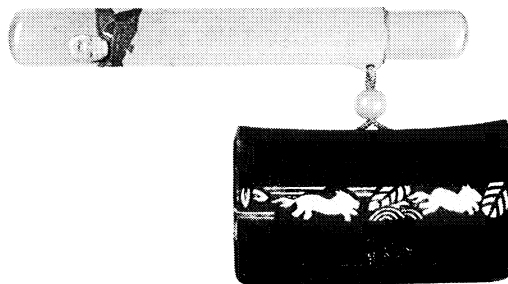
「細工」という言葉には、単にものをつくるというだけにとどまらず、くよいもの、よく工夫されたものをつくること」というニュアンスが含まれています。

こうして〈細工〉されたものは、美術品のなかにも見られるわけではありません。嗜好品や玩具、あるいは実用品や工業製品のなかにもさえ、「細工」の精神を見ることができます。

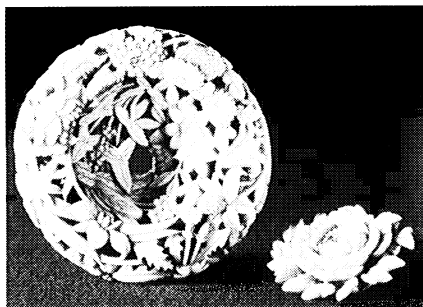
この展覧会では、江戸時代から現代に至る多種多様な〈細工もの〉の中から、美しさ、技の冴え、着想の意外性などの点で際だつものを約500点展示し、日本文化における「細工」の意味と広がりをご紹介します。



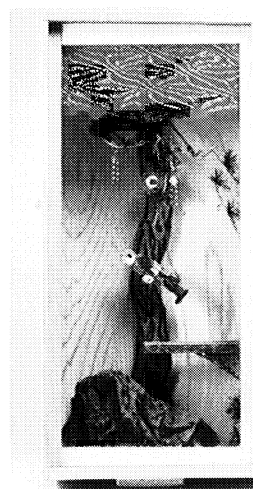
安藤緑山「牙彫 果菜置物と貝尽くし」 大正～昭和



「本駒苜蒲革腰差し煙草入れ」



根付「百花百草」 江戸時代



しゅっせん
砂からくり「鞆籠」

講演会

日時：11月3日(月) 午後2時から
場所：福島県立美術館講堂(定員240人 聴講無料)
演題「見せ物、造り物、細工物」(仮題)

グルメな口ウ細工 — 料理サンプルの実技講座 —

日時：11月22日(土)、23日(日)
場所：福島県立美術館実習室
講師：石田強義氏(株式会社岩崎・参拜)

ギャラリートーク

日時：10月24日(金)午後2時から
11月8日(土)午前11時から

観覧料

一般・大学生 = 840円(680円) / 高校生 = 630円(470円)
小・中学生 = 420円(310円) ※ ()内は20名以上の団体料金